

CSデザイン

学 生 賞

2 0 0 2

www.design-awards.com



CSデザイン
学 生 賞
2 0 0 2

●工事現場用仮囲いのデジタルデザイン ●東西のデジタルデザイン ●自由課題



審査員講評



若々しいデザイン

永井一正

CSデザイン学生賞は今回から気鋭の3人のデザイナーを審査員にして新たな視点からフレッシュなデザインが選ばれていったように思う。また高岡市・新湊市を走る市電「万葉線」の協力を得て、この部門の賞に入ったデザインは実際に市電に使用されるという試みも実現された。

金賞の東京造形大学の千野根健は工事現場仮囲いのデザインであるが、都心でおこる様々な現象・渋滞する車・そこをすり抜けていくオートバイの若者・交差する高速道路・立ち止まり語り合う女の子達等々を白地に赤い一本の線で、あたかも一筆描きのように繋げていくことにより、見る人達は楽しめたり考えさせられたりする。都会的なしゃれたデザインである。

部門賞の宮城教育大学の李修岐は工事現場仮囲いとしては意表を突くデザインで、大きな画紙が同じ大きさ、そして等間隔で点在している。そしてそれが様々な角度で置かれ影と共に変化に富んでいる。その画紙は尖った針の痛さを感じさせ工事現場の危険をさげたいという思いと共に、美しく楽しいものにもなっている。

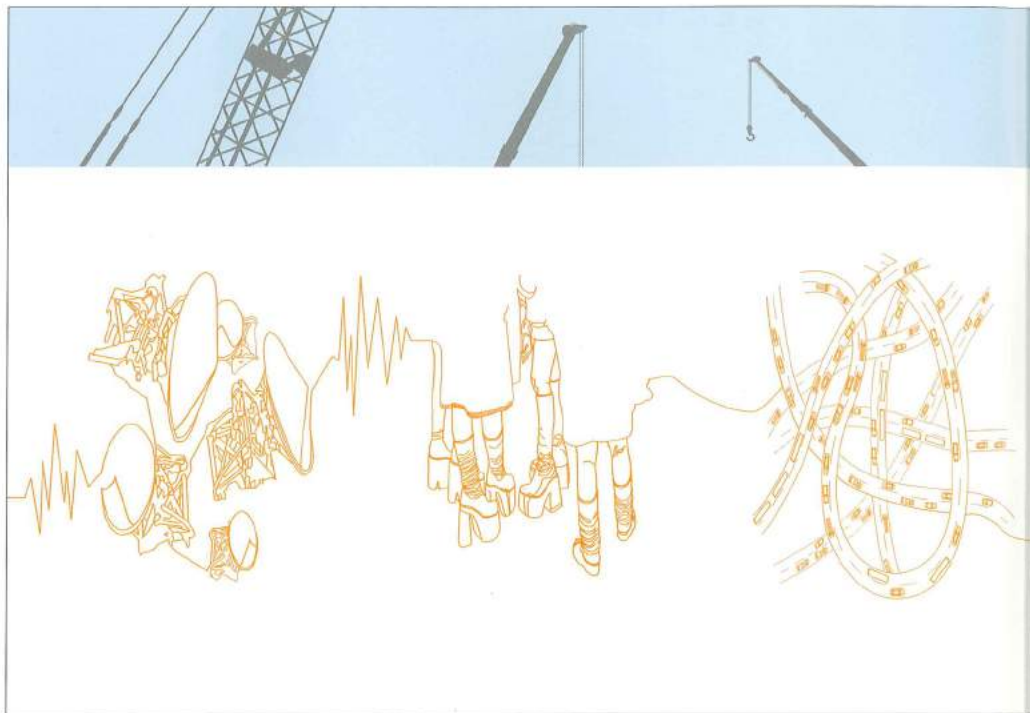
車両部門に入賞した九州芸術工科大学の岡本卓憲のデザインは、明るいグリーンが車両の前面そして側面に続き、それが水玉に抜け後方に大きくなり消えていく。これは丁度グリーンのグラデーションになり前進するスピード感がある。そしてその水玉は豊かで快いリズム感を演出している。「万葉集」ゆかりの地を走る車両にあざわしい環境によくなじんだデザインになっている。

また自由課題の部門賞はプラット・インスティテュートの江下就介・宮地麻衣子・三木慶悟の合作であるが、モザイク状のカラーパーをプレキシグラスと組み合わせ、それを赤いレンズを通して見るといった風に不思議な効果でCSの新しい使い方としても注目される。いづれも学生らしい若々しいデザインで好感が持てた。

(グラフィックデザイナー)

金賞

工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン



菊竹 雪

仮囲いデザイン、ラッピングバスや電車が都市の自然な風景になるほど、街の中に溢れてきた。そのような環境にあって、CSデザイン学生賞は、若い人達がそれらをどう新鮮な視点でとらえ、デザインするか問われた。応募作品は仮囲いデザイン部門に集中し、初々しい感性に溢れる多数の作品が集まった。入選した作品はどれも若々しいアイデアに満ちていたが、特に専門的な知識を持たない高校生の作品が他に見劣りすることなく佳作に選ばれ、鮮やかな印象を残した。

金賞になった千野根さんの作品は、作者

が描く都市の特徴的なイメージをシンプルな線画で表現し、それが1本の線で繋がっているという明確なコンセプトで、その発想と造型は群を抜いていた。部門賞になった李さんの作品はそのアイデアに驚かされた。あえて、人を寄せつけないイメージを与える画紙をモチーフに選んだことがとても新鮮な印象を与えた。

江下・宮地・三木さんの共作による自由課題の作品は、今回の審査会の中で一番魅きつけられた。色彩の重なりによって見えてくるもの、見えなくなるものを表現し、CSの新たな可能性を唯一応募作品の中で提

示していると感じたからだ。

最後に、この賞の素晴らしいところは、入賞作品が実際に施工され展示されることだ。だからこそ、仮囲いや車両デザインを環境デザインにとらえ、それが街の中を走ったり、工事現場にある実際の風景をしっかりと想定した物づくりの姿勢が問われていると思う。



金賞

千野根 健／東京造形大学 視覚伝達専攻
工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

作品コンセプト

おもに都心で利用されることを想定してデザインしました。都心で見られる特徴的な現象や都心のイメージ。それは、高飛車な女の子だったり、道路渋滞だったり、複雑に交差した道路だったり、情報の発信地だったりします。しかし、それら一つ一つを取り上げるのならば、特に都心でなくても見受けられる現象でしょう。それらすべてが重なりあって「都心」だと思うのです。ならば、それらの現象を1本の線で繋げてみてはどうでしょう。都会的ながらも、改めて自分達の「場所」を鏡で見つめなおすようなデザインになったと思います。

部門1 工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

部門賞/佳作



1 部門賞

李 修岐/宮城教育大学 教育研究科美術専攻

作品コンセプト

街を歩くと、いろいろなところで工事をしているのが見受けられる。この工事の現場で、どうすれば、人々に工事の危険を知らせられるかと考えてみた。表現された画紙は緊張感を持っていると思われる。画紙という痛い、刺されるなどのイメージを単純に平面で表現し、工事現場からの危険メッセージを伝え、同時に、壁面に画紙をばらまくことで遊び感覚をイメージ表現したかった。

2-9 佳作

2 山田幸子/

東京コミュニケーションアート専門学校 グラフィックデザイン専攻

3 佐々木陽子/富士見高等学校 世界史専攻

4 中川浩一/米国サンタモニカカレッジ グラフィックデザイン専攻

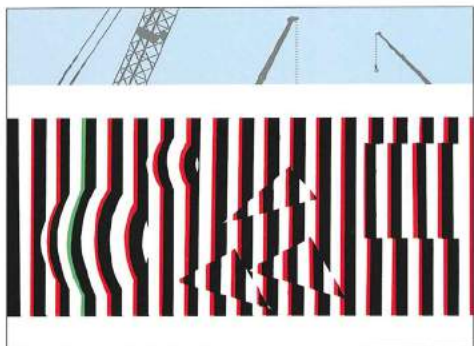
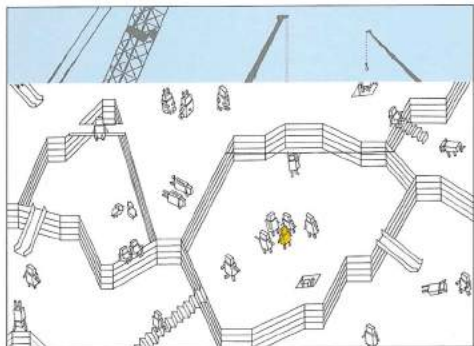
5 大浦かおり/大阪モード学園 インテリアデザイン専攻

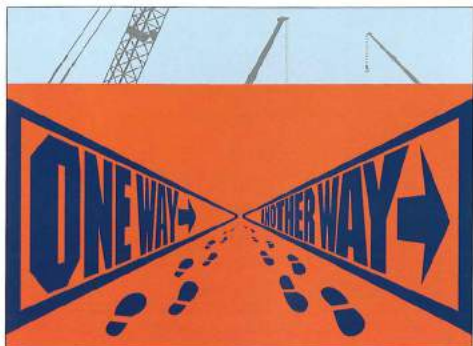
6 大森千香/九州芸術工科大学 画像設計専攻

7 藤井教彰/大阪モード学園 インテリア専攻

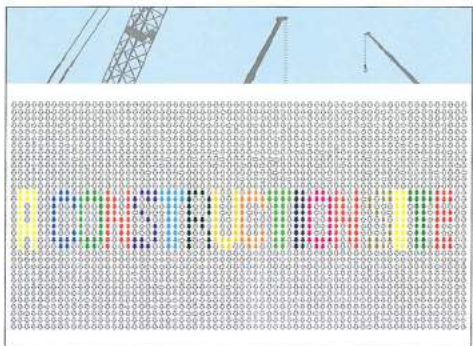
8 青木佐和子/バンタンキャリアスクール グラフィックデザイン専攻

9 平田朱美/福岡教育大学 美術専攻

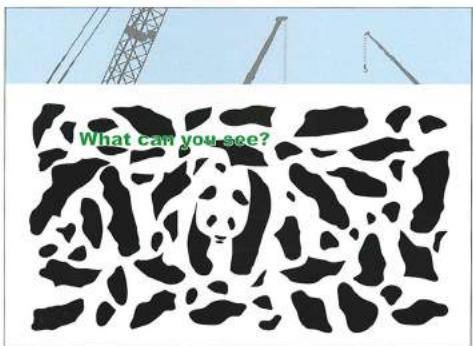




4



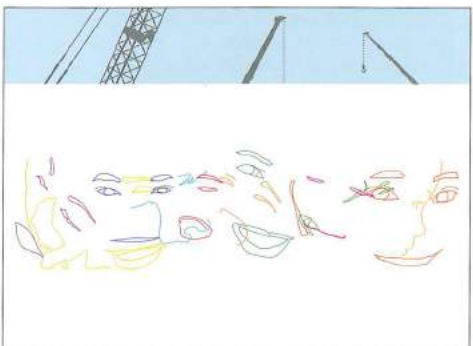
7



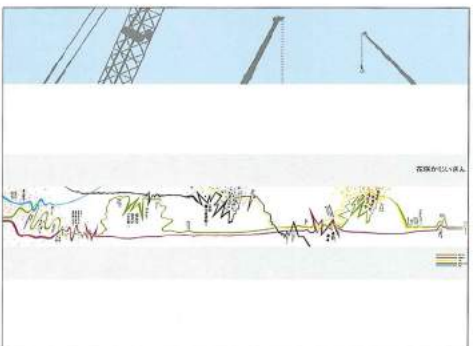
5



8



6



9

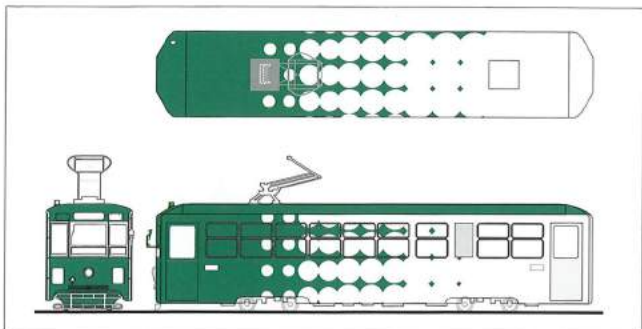
佐藤 卓

車両のグラフィックデザインを考えるとき、その車両が走る環境をよく理解する必要がある。そして、その環境の中にあってどうあるべきかは色や図柄を考える以前に検討しなければならない実は重要な問題なのである。実際に車両が走ることを想定しての課題である以上その問題は避けては通れないだろう。

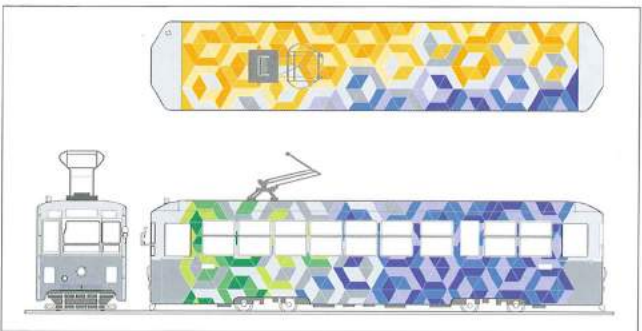
そもそもグラフィックデザインが車両の表面にどれだけ必要なのだろうか。グラフィックデザイナーやイラストレーターのキャンパスとして設定されているものなのだろうか。自分の街や生まれ故郷に走っている姿を生活者の眼で想像してみればいい。生活の中において基本となるデザインは主張するものであってはならない。生活にどれだけ自然にとけ込んでいけそうかをよく検討する必要がある。どのようなデザインの作業においても社会的な意味を考慮することが重要で、その上で面白くあるべきかどうかを検証するべきなのである。

分かりやすい例として近年の東京都バスの表面が、広告収入を得るため広告メディア化された結果を見れば一目瞭然である。ときどき美しいバスに出会うのであるが、ほとんどはビジュアルの暴力と言っても過言ではない。メディア化したことが悪いのではなく、バスが都市において視覚的にどのように存在するべきかという東京都としてのディレクションがまったくなされていないのが原因である。そのためゴミのようなバスをよく見かけることになる。

学生の時から、もっと公共のデザインがどうあるべきかを考える訓練をするべきではないだろうか。自己表現手段を模索することよりよっぽど社会的に意味があると思うのだが、そのような意味において、この車両部門という課題はいい機会を与えてくれるものであると思う。



1



2

1 部門賞
岡本卓憲/
九州芸術工科大学 インダストリアルデザイン専攻

2 佳作 (共作)
橋本浩明/東北芸術工科大学 生産デザイン専攻
長坂匡幸/東北芸術工科大学 生産デザイン専攻

作品コンセプト

この作品のコンセプトは「春の訪れ」です。万葉線は日本の中でも雪の多い地域を走る車両ということで、雪の中に春の息吹が吹き込む様子を描き、長い冬に春の訪れを待つ思いを表現しました。今、社会は不景気と言われ、先の見えない状態にあります。この作品では、そういう先の見えない冷たい雪の中でも突き進んでいけば、いつか暖かい春に突き抜けるのだという思いを幾何学的に表現しました。

部門3 自由課題

部門賞

工藤青石

「BELIEVE WHAT YOU SEE」と題されたこの作品はアートインスタレーションにカットティングシートを用いるという最も自由であるべきテーマを自ら設定することで、制作する過程をより楽しいものにするように感じる。結果的には抑制の効いた表現を行うことで、ある精度を獲得している。

「赤い透明シートを通して見たときにメッセージが現れる」というアイデアを空間の中で表現するこの作品は、カットティングシートならではの表現と言えるだろう。アクリルの薄いBOXをベースに取り入れ、平面から立体へと展開していることでイメージに広がりが出ている。カットティングシートは質感の無い素材だが、空間的な構成によってそのことが強調されていると感じた。カットティングシートを色として捉えるだけでなく、その素材感に着目し、透明感、アクリルとのマッチングによる効果を取り入れている点も評価できる。色彩的には限られたトーンでまとめ、グリッドのシンプルな構成でやりきったことで着目点が素直に伝達されている。

コンセプトがあり、方法があり、表現がある。そういったプロセスがきちりとおさえられていたことが、今回の受賞に結びついたと思う。

部門賞（共作）

江下就介/ブラット・インスティテュート
コミュニケーションデザイン専攻

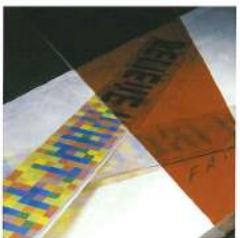
宮地麻衣子/ブラット・インスティテュート
インテリアデザイン専攻

三木慶悟/ブラット・インスティテュート
建築専攻

作品タイトル“BELIEVE WHAT YOU SEE”

作品コンセプト

CSをアートインスタレーションに使用する試みである。作品は10色の正方形をモザイク状に配置したカラーバーで、赤いレンズを通して見ることによって、隠されたメッセージが浮か



びる。この視覚イリュージョンを通して「視点の発見」を提案した。カラーバーは厚手のプレキシグラス（アクリル板）の間にCSを挟み込む構成。これにより色に透明感が生まれ、見えるようで見えない、見えないようで見えるといった視覚のイリュージョンに適した色効果が現われる。透明感が色そのものの強さを描く危険性もあるが、CSを使うことによって、発色の良さを保つことができる。CSはアクリル板と組み合わせることにより現われる透明感と、色の力強さとを同時に表現するのに最適な素材だと考える。

●審査員プロフィール●



永井一正

1929年大阪生まれ。1951年東京芸術大学彫刻科中退、大和紡績を経て、1960年日本デザインセンター創立とともに参加。同代表取締役を経て、現在、最高顧問。

主な仕事：札幌冬季オリンピック1972、沖縄海洋博1975など国際イベントの公式マークデザインが指名コンペにより正式採用される。諸団体のシンボルマーク、各種企業のCIデザインを多数手がける。

受賞：日宣美会員賞(1966)、朝日広告賞、東京国際映画ビエンナーレ展東京国立近代美術館賞(1968)、日本宣伝賞山名賞、毎日デザイン賞(1983)、東京ADC会員賞・会員最高賞(1992)、毎日芸術賞、芸術選奨文部大臣賞(1988)、通産大臣デザイン功労者表彰(1995)、亀倉雄策賞(2000)。海外では第1回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ金賞(1966)はじめ同銀賞・芸術アカデミー名誉賞、ブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレ金賞・グランプリ(1988)、第1回モスクワ国際ポスタービエンナーレグランプリ(1992)、メキシコ国際ポスタービエンナーレ第1位、ヘルシンキ、ザグレブ、ウクライナ、ホンコンの国際展でグランプリ。紫綬褒章(1989)、勳四等旭日小授賞(1999)。

展覧会：富山県立近代美術館、ワルシャワ近代美術館ポスター館、東京国立近代美術館フィルムセンターなどで個展。作品が東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、富山県立近代美術館、姫路市立美術館、ニューヨーク近代美術館、ドイツ国立抽象美術館などにパーマネントコレクション。

著書：『アートディレクション』(美術出版社)、『永井一正のポスター』(河出書房新社)、『永井一正の世界』(講談社)、『永井一正デザインライフ』(六耀社)

会員：JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会理事、日本デザインコミッティー(理事長)、東京ADC(東京アートディレクターズクラブ)、AGI(L'Alliance Graphique-Internationale(仏))



菊竹 雪

1958年東京生まれ。

1981年日本女子大学住居学科卒業。

(株)日本デザインセンターを経て、

1990年(株)コンパツ設立。

1994～95年文化庁派遣芸術家在外研修員として、

英国Royal College of Arts在籍。

法政大学工学部建築学科講師。

主な仕事：講談社、原宿T's、YM Square Harajuku、島根県立美術館、江戸東京博物館、北九州メディアドームなどの工事現場仮囲いデザイン。

受賞：JAGDA新人賞(1999)、日本サインデザイン大賞(1999)、通商産業大臣賞(1999)、CSデザイン賞金賞(1998、2000)など。

会員：JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会、AACA(社)日本建築美術工芸協会



佐藤 卓

1955年東京生まれ。

1979年東京芸術大学デザイン科卒業。

1981年同大学院修了、(株)電通を経て、

1984年佐藤卓デザイン事務所を設立。

主な仕事：グラフィックデザインを中心に、ニッカビュアモルト、ロッテ・クールミントガム、ロッテ・キシリトールガム、FMKスキネクアシリーズなどの商品デザイン。

ほかにTOYOTA VISTA、BS朝日のVIデザイン、プロダクトデザインなど幅広い領域で活動中。

受賞：東京ADC賞、JAGDA新人賞、東京TDC銅賞、日本パッケージデザイン大賞金賞、デザインフォーラム金賞など。

著書：『デザインの解剖①＝ロッテ・キシリトールガム』(美術出版社2001年刊)、『デザインの解剖②＝フジフィルム・写ルンです』(美術出版社2002年刊)

会員：東京ADC(東京アートディレクターズクラブ)、東京TDC(東京タイポディレクターズクラブ)、JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会、日本デザインコミッティー、AGI(L'Alliance Graphique-Internationale(仏))



工藤 晋石

1964年生まれ。

1988年東京芸術大学卒業、資生堂入社。

1992年から4年間の同社バリ勤務を経て、

現在パッケージクリエイティブアートディレクター。

主な仕事：セイロウゼマイクアップ、キオラ、NEWイサのプロダクトデザイン、パッケージデザイン。

資生堂本社ウィンドウディスプレイなどの空間デザイン。

キオラブランドの米園導入においては、プロモーションを含むクリエイティブ全体のディレクションを行うと共にショップの空間デザイン、家具デザインを手がけた。

受賞：東京ADC賞(1998、1999)、日本パッケージデザイン大賞(1995、1999、2001)、ディスプレイデザイン賞(1993～2001、1992は大賞)、SDA賞(1997～2001)、CSデザイン賞大賞(1998、2000)、JAGDA新人賞、ニューヨークADC賞銀賞など。

会員：東京ADC(東京アートディレクターズクラブ)、JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会、JPDA(社)日本パッケージデザイン協会

CSデザイン学生賞2002 [募集要項]

「色を通じて社会貢献したい」と願う中川ケミカルが豊かな環境づくりを目的にCSデザイン賞を行ってきました。今回は学生作品を広く募集します。

募集作品

装飾用粘着シート（カッティングシートCS200・NOCS2500ノックス・ニー・ゴー・マル・マル）を使用することを前提としたデザインとします。

- (1)工事現場用仮囲いのビジュアル・デザイン
- (2)車両のビジュアル・デザイン…市電「万葉線」(富山県高岡市・新湊市)
- (3)自由課題（平面・立体を問わず実験的な作品）

審査の方法

- (1)(2)は、規定のデザインフォーマットの上に作画した「デザイン」の審査とします。
- (3)は、特に規定はありません。

応募資格 応募期間中に、在学の方に限ります。

応募の方法

応募は、Webサイト「CSデザイン学生賞(www.design-awards.com)」に掲載されている応募要項にもとづき、必要事項を添付して、データ送信または郵送(フロッピー、手書き作品)してください。

- 作品形態 規定のデザインフォーマットに準じたデータ、またはA3判の用紙とします。

作品のサイズは、1作品についてA3判2枚横つなぎを最大とします。

- 表現方法 グラフィックソフトによる作画、または手書きの作画。
(1)(2)はWebサイト(www.design-awards.com)上に掲載されているフォーマットをダウンロードしてください。
グラフィックソフトはアドビ社の〈Illustrator 7.0〉〈Photoshop 4.0〉以上とします。

- 色指定 CS200及びNOCS2500による色指定とします。
シート色による着色ができるカラーパレット・ソフト(CS200・NOCS2500)を無償提供します。
シートの色見本が必要な場合は、お送りします。

審査員（敬称略）

永井一正（審査委員長）
菊竹 雪
工藤青石
佐藤 卓

協賛 日経デザイン

協力 高岡市・新湊市

後援団体（順不同）

社団法人 日本グラフィックデザイナー協会
社団法人 日本商環境設計家協会
社団法人 日本サインデザイン協会
社団法人 全日本屋外広告業団体連合会
社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会
社団法人 日本ディスプレイデザイン協会
日本タイポグラフィ協会

主催 株式会社中川ケミカル

応募総数/637点

たくさんのご応募
ありがとうございました

